

内村鑑三年

三日

豊田勝儀作閥

年次	年齢	生 活 • 作 品								
1870	1869	1868	1867	1866	1865	1864	1863	1892	1861	年次
3	2	明治慶元	4	3	2	慶元	元治元	3	2	年齢
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
1月	高崎	9月 石巻に移転、漢字の塾に通う。	高崎	江戸	江戸	江戸	江戸	江戸	江戸	
10月	石巻	白井先生邸宅に手習に行つた。	高崎柳川町に移転。	江戸	5月 祖父長成死宜之家督をつぐ。	江戸	江戸	江戸	江戸	
										3・23 上州高崎藩士内村金之丞宜之と妻大戸氏ヤン子の長男として江戸小石川の松平右京亮大河内輝聲の武士長屋に生る。

年次	年齢	生 活 • 作 品								
1878	1877	1876	1875	1874	1873	1872	1871	年次	年齢	
11	10	9	8	7	6	5	4			石巻 6月 高崎 このころ高崎城外の鳥川で魚獲りに熱中する。
18	17	16	15	14	13	12	11			高崎 3月 東京赤坂の有馬学校に入学。
12	6	9	8	7	6	5	4			高崎 3月 東京外國語学校(のちに東京英語学校、東京大学予備門と改称)英語科下等第四級に入学。
M・2	メソヂスト・エピスコバル教会宣教師	北海道に渡り札幌農学校(のちの北海道大学)第二期生として入学。入学と同時に第一期生よりキリスト教を伝えられた。	12	11	10	9	8			同校御雇教師M・M・スコットの語学教育により英語の勉学に大いなる啓発を受く。
C・1	ハリスより同級生六名と受洗。	同年三月帰米した前教頭W・S・クラークの書き残した「イエスを信する者の契約」に強制的勧奨により署名せしめられた。	スル教会に入会し、校内にてはじめてのクリスマスを祝う。	長く住んだ。	長く住んだ。	長く住んだ。	長く住んだ。			

1883	1882	1881	1880	1879
16	15	14	13	12
23	22	21	20	19
1月 札幌農学校発行「農業叢談」に「米の滋養分」を発表。 9月より第三級に進む。	7月 札幌農学校を首席で卒業。農学士の学位を受けた。北海道開拓使御用掛を申付けられ、11月父宜之の回心。翌年始めに受洗。	2月 札幌農学校を首席で卒業。農学士の学位を受けた。北海道開拓使御用掛を申付けられ、11月12月水産調査を從事す。	2月 札幌農学校を首席で卒業。農学士の学位を受けた。北海道開拓使御用掛を申付けられ、11月12月水産調査を從事す。	7月 第二級を平均点九五・二、級の第一位で終了。夏期休暇に東京に帰省。 9月より第三級に進む。
2月 生物学会に入会。 5月 東京茂原における第三回全国基督教信徒大親睦会に札幌独立教会を代表して出席し「空ノ鳥ト野ノ百合花」と題して演説す。	1・8 札幌独立教会設立、その献堂式に「帆立貝の基督教に対する関係について」と題して講演す。 2月 開拓使御用係を辞して上京。 4月 日高地方に水産調査。 9月 祝津にて鮑の卵子を発見。	1・8 札幌独立教会設立、その献堂式に「帆立貝の基督教に対する関係について」と題して講演す。 2月 開拓使御用係を辞して上京。 4月 日高地方に水産調査。 9月 祝津にて鮑の卵子を発見。	7月 札幌農学校を首席で卒業。農学士の学位を受けた。北海道開拓使御用掛を申付けられ、11月12月水産調査を從事す。	7月 札幌農学校を首席で卒業。農学士の学位を受けた。北海道開拓使御用掛を申付けられ、11月12月水産調査を從事す。
12月 慣行調査および日本魚類目録の作成に従事す。 水産	12月 札幌YMCA設立に尽力。 1月 後東京在住。	11月 札幌YMCA設立に尽力。	11月 札幌YMCA設立に尽力。	1月 後東京在住。

1887	1886	1885	1884
20	19	18	17
27	26	25	24
9月 学。	7月 アーモスト大学卒業。	3月 アーモスト大学に於て、シリ一總長の影響下に決定的な回心を経験す。	3月 上州安中の浅田タケと結婚。 5月 北海道、新潟、佐渡島に水産調査旅行「大日本水産会報告」に「漁業と氣象学の関係」「瑞典國練漁廠の原因」「石狩川鮭魚減少の原因」「鮎魚に関する調査の成績」などを発表。
12月 コネチカット州ハートフォード神学校に入	7月 B・Sの称号を受く。	7月 夏休み、エルウインで過ごす。 クラーク歴。	10月 渡米。 11月 ペンシルヴァニア州立白痴院長I・N・ケルリンの庇護を受けた。 12月 東京在住。
1月 ホイットニイに生物学を教えられた。	1月 ホイットニイに生物学を教えられた。	1月 ホイットニイに生物学を教えられた。	1月 東京大學動物學研究室で魚類を研究、日本の脊椎動物目録を作成。

1891	1890	1889	1888
24	23	22	21
31	30	29	28
1月 エルワインにしばらく滞在、カライルの土人教育事業を視察す。	3月 ニコラ・クを出帆。 5月 16日 帰国。	9月 新潟の北越学館に校長兼事務取扱として赴任し、生物学を担当、かたわらエレミヤ記の講義を公開した。	1月 ハートフォード神学校を退学。 エルワインにしばらく滞在、カライルの土人教育事業を視察す。
2月 横浜加寿子と結婚。	7月 ~5月 東洋英和学校にて万国史、東京水産伝習所にて実用動物学を教える。 7・31 横浜加寿子と結婚。	9月より明治女学校高等科にて生物学を教える。	5月 16日 帰国。
3月 本郷中央会堂にて士師記講義。	1月 札幌独立教会より脱退した。	9月 東京本郷の第一高等学校（後の第一高等学校、東京大学）の嘱託教員となり、英語、歴史を担当、又森の倉監となる。	12月 教育方針について宣教師らと対立、辞任帰京。
1894	1993	1892	
27	26	25	
34	33	32	
1月 札幌独立教会より脱退した。	2月 「基督教信徒の慰」、「ローマノフと彼の功績」刊行。	1月 「基督教信徒の慰」、「ローマノフと彼の功績」刊行。	1~6月 組合教会京橋讃美館にて創世紀の講義を行ふ。
2月 解雇。この間より感冒より肺炎になり臥床。	3月 『文学博士井上哲次郎君に呈する公開状』を『教育時論』に発表。	2月 『求安縁』刊行。	2月 『日本国民の天職』を『六合雑誌』四月号に発表。
4月 妻加寿子死去。	4月 熊本英学校（校長藏原惟郭）に赴く。	3月 『How I Became A Christian』脱稿。	4月 大阪教会にて、小島弘道とともに説教する。
5月 新潟県高田の弟達三郎のあとに滞在した。	5月 「伝道の精神」刊行。	4月 「真操路得記」一名『娘と姑の福音』刊行。	5月 大阪の泰西学館（校長宮川経輝）の教師となり、地理、歴史、『ルトン、天文學などを教える。
10月 本郷中央会堂にて士師記講義。	6月 京都大学基督教青年会館で日曜学校を行う。	5月 1~5月 京都大学基督教青年会館で日曜学校を行ふ。	6月 京都の岡田静と結婚。
8月 以後「流獻錄」を「国民之友」に掲載。	7月 「地理學考」（明30・2「地人論」と改題）刊行。	6月 「地理學考」（明30・2「地人論」と改題）刊行。	7月 千葉県竹岡を訪問、聖書を教える。
10月 「日清戦争の目的如何」を「国民之友」に掲載。	8月 箱根の基督教青年会主催の第六回夏期学校に出席し「後世への最大遺物」と題して講演。	7月 「Japan and Japanese」刊行。（明41・4 "Representative Men of Japan" との題）	8月 大阪の泰西学館（校長宮川経輝）の教師となる。

1897	1896	1895
30	29	28
37	36	35
1月 ・ 11月 ・ 12月	1月 ・ 9月 ・ 6月	1月 ・ 6月 ・ 7月 ・ 10月 ・ 11月 ・ 12月
黒岩涙香主筆の日刊新聞「万朝報」(よろづちようほう)の英文欄担当。東京青山南町に移転。 「後世への最大遺物」刊行。 「英和愛吟」刊行。 蘇峯が藩閥政府に任命されたことを非難する。	長篇論文「時勢の觀察」発表、大いなる反響をよぶ。この夏與津における基督教青年会主催の講師として出席。カーライル(八回)基督教と西洋文明(一回)について講演。京都にて基督教天然観人生観(八回)を講演した。 京都の三年間は生活に最も窮屈した。	「精神的教育とは何か」、「國民之友」と「國民之友」に掲載。「如何にして大文学を得ん乎」を「國民之友」に掲載。「農夫亞麻士の言」を「國民之友」に掲載。「何故に大文学は出ざる乎」を「國民之友」に掲載。「如何にして大文学を得ん乎」を「國民之友」に掲載。「The Diary of A Japanese Convert ("How I Became A Christian" の米国版)刊行。
1900	1899	1898
33	32	31
40	39	38
1月 ・ 10月 ・ 12月	4月 ・ 5月 ・ 7月 ・ 8月 ・ 9月 ・ 10月 ・ 11月 ・ 12月	1月 ・ 6月 ・ 7月 ・ 8月 ・ 9月 ・ 10月 ・ 11月 ・ 12月
青山南町より豊多摩郡中渋谷に移転。 「万朝報」社退社。米国詩人等の講演を「月曜講演」として明治32年1月、「宗教と文学」と改題。 「東京独立雑誌」山縣と分れ、内村が主筆として創刊。毎月二回(後に三回)山縣悌三郎と共に創刊。 葉山の第十回基督教夏期学校で講演。	基督教青年会館に於けるカーライル、ダンゲリテの講演。明治32年1月、「宗教と文学」と改題。 牛込矢来町に移転。 「小憤慨録」刊行。	3月 ・ 10月 ・ 1月 ・ 2月 ・ 3月 ・ 4月 ・ 5月 ・ 6月 ・ 7月 ・ 8月 ・ 9月 ・ 10月 ・ 11月 ・ 12月
聖書研究所開設。「立万興報」に「聖書之研究」創刊号(九月号)発行。 「立万興報」に「聖書之研究」に「客員」として再び迎えられる。 立万興報とカーライルのクロムエル伝のこと)を苦讀者部で夏期講談会につくり毎月一回会合す。	主筆に対する反対が起り、「東京独立雑誌」(七十二号)を廃刊し同社解散。 第一回夏期講談会を独立女学校で開き講師として出席。上田、小諸で講演。 「宗教座談」刊行。	「東京独立雑誌」に掲載。「英和時事会話」刊行。

1902	1901
35	34
42	41
1月 足利の友愛義団に招かれ、社会改良演説会 尾銅山鉱毒被罪地を巡視。	3月 続く。小宗教雑誌「無教会」刊行。翌年八月まで このころ毎日曜日午前十時より聖書の講義を自 宅にて行った。
2月 「日英同盟に関する所感」を「万朝報」に 発表し反対を表明した。	4月 足利の友愛義団に招かれ、社会改良演説会 に巖本善治・木下尚江と演説。渡瀬川沿岸の足 尾銅山鉱毒被罪地を巡視。
3月 「聖書の研究」と社会改良事業」を「万 朝報」に連載する。	5月 札幌に赴き独立教会にて七日間講演。
4月 「聖書の研究」と社会改良」を「聖書之研究」 に掲載。	6月 「独立雑談」刊行。
5月 「独立清興」刊行。	7月 万朝報社内の人々を中心として神田の青年 会館で「理想団」発起設立。
6月 「角筈聖書研究会」を会員二十五名に限り、日曜日 午前十時から角筈自宅にて開く。	7月 25~8月4日 第二回夏期講談会を開き講師と して出席する。
7月 北海道各地をまわり、札幌独立教会にも講 演、理想団札幌支部発開式に演説。	8月 「無教会」を終刊(十八号)。
8月 角筈聖書研究会を会員二十五名に限り、日曜日 午前十時から角筈自宅にて開く。	9月 「基督教徒と社会改良」を「聖書之研究」 に掲載。
9月 東京芝高輪の仏教大学にて「余の宗教的生 涯の一斑」と題し講演。	10月 札幌に赴き独立教会にて七日間講演。
10月 「余の徒歩についてある社会改良事業」を「万 朝報」に連載する。	11月 「余の徒歩についてある社会改良事業」を「万 朝報」に連載する。
11月 「角筈聖書研究会」を会員二十五名に限り、日曜日 午前十時から角筈自宅にて開く。	12月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
12月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	1904
1月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	1903
2月 「死刑廃止論」を「万朝報」に掲載。	3月 「死刑廃止論」を「万朝報」に掲載。
3月 「聖書の研究」と社会改良」を「聖書之研究」 に掲載。	4月 信州上田にて「宗教の必要について」講演。
4月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	5月 田中青年会館にて東北地方の災害に対し、「饑 饉の福音」と題して講演。
5月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	6月 「バムフレット三條の金線」刊行。
6月 「バムフレット三條の金線」刊行。	7月 「バムフレット三條の金線」刊行。
7月 「バムフレット三條の金線」刊行。	8月 「バムフレット三條の金線」刊行。
8月 「バムフレット三條の金線」刊行。	9月 「バムフレット三條の金線」刊行。
9月 「バムフレット三條の金線」刊行。	10月 「バムフレット三條の金線」刊行。
10月 「バムフレット三條の金線」刊行。	11月 「バムフレット三條の金線」刊行。
11月 「バムフレット三條の金線」刊行。	12月 「バムフレット三條の金線」刊行。
12月 「バムフレット三條の金線」刊行。	1月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
1月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	2月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
2月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	3月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
3月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	4月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
4月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	5月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
5月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	6月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
6月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	7月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
7月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	8月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
8月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	9月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
9月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	10月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
10月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	11月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
11月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	12月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
12月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	1月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
1月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	2月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
2月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	3月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
3月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	4月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
4月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	5月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
5月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	6月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
6月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	7月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
7月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	8月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
8月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	9月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
9月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	10月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
10月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	11月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。
11月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。	12月 「角筈聖書研究会」を「聖書之研究」に掲載。

1907	1906	1905
40	39	38
47	46	45
1月 病床。 聖書研究会を自宅にて続行。 4月 「新希望」を「聖書之研究」に復名。 How I Became A Christian のデン・マルク語訳刊行。	1月 病床。 聖書研究会を自宅にて続行。 4月 「新希望」を「聖書之研究」と改題。 信仰的友誼団体「教友会」創立。「教友」発刊。 5月 小崎弘道、植村正久、柏井園とともに新約聖書の改訳に從事。 9月に至って中止。	2月 「基督教問答」刊行。 新潟にて聖書研究会を開き「日本人の研究」と題し講演。 5月 小崎弘道、植村正久、柏井園とともに新約聖書の改訳に從事。
8月 千葉県山武郡鳴浜村にて催された教友会第 二回夏期懇談会にて講演。 9月 「聖書短篇第一 保羅の復活論」刊行。 11月 角筈から東京豊多摩郡淀橋町柏木に移転。 聖書研究会をつづける。	11月 越後柏崎での教友会第一回夏期懇談会で講 演。 京都、大阪の講演より帰った後、自宅附近 の新築貸家を借り、教友宿泊所「教友館」を開 設。東京教友会員は毎週ここで例会する。	6月 秋、「平和成る」「一日露戰争より余が受けし利益」をいづれ も「新希望」に掲載。 11・15 角筈聖書研究会は東京教友会に変名。
10月 「Japan and Japanese」のドイツ語、デンマー ク語訳刊行。	10月 「基督教問答」刊行。	"How I Became A Christian" の「基督教問答」語訳刊行。
4・13 父死去。	4月 「基督教問答」刊行。	「基督教問答」刊行。
1910	1909	1908
43	42	41
50	49	48
10月 福島県、長野県へゆく。	3月 「近代における科学的思想の変遷 一名 新 科学の福音」刊行。 6月 隣人ドイツ人の家を改造「ルーテル館」と 名づけ聖書研究会を行う。 9月 青木茂雄と日光に遊ぶ。 9・11月 ルーテル館にて「ルーテル伝講話」を行 う。	4月 "Representative Men of Japan" 刊行。 5月 「みらい短編」刊行。 6・4 「聖書之研究」第百号感謝会。 今井樟太郎遺族により柏木自宅内に「今井館」開館。 8月 「非戦論の原理」を「聖書之研究」に掲載。 9月 青木茂雄と共に日光に遊ぶ。

1913	1912	1911
2	大正元 45	44
53	52	51
12月 「研究十年」刊行。	11月 第一日曜日から聖書之研究読者に対して聖書研究会が公開される。 書研究会が公開される。 このころ相会解散される。	毎日曜日 聖書研究会を今井館にて行う。 ルーテル館の聖書研究は廃された。 3月 満五十才が教友によって祝われた。 4月 長崎メソジスト教会にて講演。
10月 札幌独立教会にて講演。 東北帝国大学農政学講堂にて「宗教と農業」を講演。	11月 旧友新渡戸稻造家に広井勇と会する。 岡山、明石、京都に講演。	9月 「世界の平和は如何にして来るか」「世は果して進歩しつゝある乎」を「聖書之研究」に掲載。 10月 南原繁、坂田祐らが参加。 毎日曜日 聖書研究を今井館にて行う。 11月 高橋ツサ子死に花巻にゆく。 12月 「白雨会」誕生。
5月 「所感十年」「デンマーク國の話」刊行。 之研究」紙上にて米国を攻撃。	7月 長女ルツ子（十九才）死去。 7月 「独立短言」刊行。	7月 「洪水以前記」刊行。
1916	1915	1914
5	4	3
56	55	54
11月 「歐洲戰爭と基督教」を「聖書之研究」に掲載。	12月 「約翰福音書」を「聖書之研究」に掲載。 藤井武、助手となる。 「ノアの洪水を思ふ」を「聖書之研究」に掲載。	毎日曜日に柏木聖書講堂にて聖書研究会を行なう。 4月 「戦争の止む時」を「聖書之研究」に掲載。 3月 茨城県高浜町聖書之研究読者の会合にて、「福音と來世」と題して講演。（11月、「聖書之研究」に掲載）。 12月 「思想十年」刊行。
2月 「所感十年」「デンマーク國の話」刊行。	4月 エジプト記（講義（二十二回））を行う。 5月 米國聖書会社百年記念会にて「日本に於ける聖書の研究」と題して講演。	7月 「平民詩人」（畔上賢造共著）「宗教と農業」刊行。
6月 「旧約聖書伝道之書」一名至上善の探求」刊行。	6月 「旧約聖書伝道之書」一名至上善の探求」刊行。	7月 「基督教青年会の第二十四回夏期学校にて講演。 10月 角筈レバノン教会で「歐洲の戦乱と基督教」と題して講演。（11月、「聖書之研究」に掲載）。

1918		1917	
7		6	
58		57	
11月 基督教再臨問題講演集」刊行。	柏木聖書講堂にて「ルカ伝講義」 を行う（二十一回）。	3月 「聖書の研究」は二百号に達す。 箱根にて開かれた朝鮮基督教青年会修養会にて 「相互の理解」と題して講演。	前年12月 「聖書の研究」は二百号に達す。 箱根にて開かれた朝鮮基督教青年会修養会にて 「相互の理解」と題して講演。
1月 基督教再臨問題講演集」刊行。	柏木聖書講堂にて「ルカ伝講義」 を行う（二十二回）。	5月 「米国の参戦（平和主義者の失望）」。 7月 「戦争廃止に関する聖書の明示」を「聖書 之研究」に掲載。	5月 「米国の参戦（平和主義者の失望）」。 7月 「戦争廃止に関する聖書の明示」を「聖書 之研究」に掲載。
8月 静岡県御殿場東山荘にて一週間にわたり夏 期家庭団らん会を開催し講演。「復活と再生」 刊行。「預言者イザヤを今日在らしめば」を「聖 書之研究」に掲載。	8月 静岡県御殿場東山荘にて一週間にわたり夏 期家庭団らん会を開催し講演。「復活と再生」 刊行。「預言者イザヤを今日在らしめば」を「聖 書之研究」に掲載。	10月 東京神田基督教青年会にて開かれたル・ テル宗教改革四百年記念会にて「宗教改革の精 神」と題して講演を行う（聴衆満堂）。 このころ柏木の後身「エマオカ」生る。	10月 東京神田基督教青年会にて開かれたル・ テル宗教改革四百年記念会にて「宗教改革の精 神」と題して講演を行う（聴衆満堂）。
1月 基督教再臨問題講演集」刊行。	柏木兄弟団となり助ける。	1月 「聖書の研究」を中田重治、 木村清松と神田基督教青年会館で開き「聖書研 究者の立場より見たる基督の再来」と題し講演。 その後毎月各地で基督再臨運動を始める。	1月 「聖書の研究」を中田重治、 木村清松と神田基督教青年会館で開き「聖書研 究者の立場より見たる基督の再来」と題し講演。 その後毎月各地で基督再臨運動を始める。
4月 基督教再臨問題講演集」刊行。	4月 東京神田三崎町・バプテスト中央公会堂にて毎日 曜に講演す。	4月 門下の教友会、エマオカ会、白雨会が合併し 柏木兄弟団となり助ける。	4月 第二次再臨問題研究演説会が開始され 東京神田三崎町・バプテスト中央公会堂にて毎日 曜に講演す。
6月 基督教再臨問題講演集」刊行。	6月 軽井沢の西洋人会堂にて二日間にわたり再 臨についての英語演説を行う。	6月 柏木兄弟団となり助ける。	6月 柏木兄弟団となり助ける。
8月 基督教再臨問題講演集」刊行。	8月 軽井沢の西洋人会堂にて二日間にわたり再 臨についての英語演説を行う。	8月 柏木兄弟団となり助ける。	8月 「山上垂訓に関する研究」刊行。
9月 基督教再臨問題講演集」刊行。	9月 柏木兄弟団となり助ける。	9月 「モーセの十诫」刊行。	9月 「モーセの十诫」刊行。
12月 基督教再臨問題講演集」刊行。	12月 柏木兄弟団の動搖。	12月 モーブ記（十一回）を講ず。	12月 モーブ記（十一回）を講ず。
1920		1919	
9		8	
60		59	
1月 基督教再臨問題講演集」刊行。	1月 「宗教と科学」を神田青年会館で講演。	1月 「宗教と科学」を神田青年会館で講演。	1月 「宗教と科学」を神田青年会館で講演。
4月 基督教再臨問題講演集」刊行。	4月 「人類最初の平和会議」と題し講演し、ヴ エルサイユ平和会議を批判した。	4月 「人類最初の平和会議」と題し講演し、ヴ エルサイユ平和会議を批判した。	4月 「人類最初の平和会議」と題し講演し、ヴ エルサイユ平和会議を批判した。
5月 基督教再臨問題講演集」刊行。	5月には同所で「人類の堕落と最初の福音」又、 青年会主催の基督教界革正大演説会では「基督 教界革正の必要」を講演した。3日より青年会 館にて無教会主義者の内村が講演を行なうとい ふことで教会の人々より反対論起る。	5月には同所で「人類の堕落と最初の福音」又、 青年会主催の基督教界革正大演説会では「基督 教界革正の必要」を講演した。3日より青年会 館にて無教会主義者の内村が講演を行なうとい ふことで教会の人々より反対論起る。	5月には同所で「人類の堕落と最初の福音」又、 青年会主催の基督教界革正大演説会では「基督 教界革正の必要」を講演した。3日より青年会 館にて無教会主義者の内村が講演を行なうとい ふことで教会の人々より反対論起る。
6月 基督教再臨問題講演集」刊行。	6月 講演会場を東京丸ノ内大手町の大日本私 立衛生会講堂に移し「東京聖書研究会」が持た れ来会者は毎会五、六百。再臨運動終る。	6月 講演会場を東京丸ノ内大手町の大日本私 立衛生会講堂に移し「東京聖書研究会」が持た れ来会者は毎会五、六百。再臨運動終る。	6月 講演会場を東京丸ノ内大手町の大日本私 立衛生会講堂に移し「東京聖書研究会」が持た れ来会者は毎会五、六百。再臨運動終る。
7月 基督教再臨問題講演集」刊行。	7月 京都平信徒信仰革正会に「健全なる宗教」 と題し講演。	7月 京都平信徒信仰革正会に「健全なる宗教」 と題し講演。	7月 京都平信徒信仰革正会に「健全なる宗教」 と題し講演。
9月 基督教再臨問題講演集」刊行。	9月 「人道の偉人スチーブン・シラードの話」刊行。	9月 「人道の偉人スチーブン・シラードの話」刊行。	9月 「人道の偉人スチーブン・シラードの話」刊行。
10月 基督教再臨問題講演集」刊行。	10月 夏富永徳磨の内村再臨説反対の著作と廣告が警 醒社から出たため内村全集刊行中止。	10月 夏富永徳磨の内村再臨説反対の著作と廣告が警 醒社から出たため内村全集刊行中止。	10月 夏富永徳磨の内村再臨説反対の著作と廣告が警 醒社から出たため内村全集刊行中止。
12月 基督教再臨問題講演集」刊行。	12月 「研究第二の十年」刊行。	12月 「研究第二の十年」刊行。	12月 「研究第二の十年」刊行。

1922		1921	
11		10	
62		61	
1月 藤井武との交わり回復す。 1~6月 (二十三回)、10月(四回) 同場所にてローマ書講演を行う(合計六回)。10~12月 (八回) イエス伝の講演をひき続き行う。	1月 藤井武との交わり回復す。 1~6月 (二十三回)、10月(四回) 同場所にてローマ書講演を行う(合計六回)。10~12月 (八回) イエス伝の講演をひき続き行う。	1月 「婚姻の意義」刊行。 4月 エルワイン白痴院時代の親友にして当時同院長であったM・W・バーの来日を迎う。 5月 M・C・ハリスの葬儀に列する。 6月 「ルートル伝講演集」刊行。 7~19~26 三十六年間の信仰の友デヴィッド・C・ベル(八十一才)とその息子チャールスの来日を迎える。 10月 雑誌「靈光」を畔上、里崎により発刊。 翌9~1 第十二号にて終了。	1月 黒沢幸吉が助手となる。 1~6月(二十一回) 10~12月(十二回) 大手町衛生会講堂にてローマ書の講演を行う。 3月 「婚姻の意義」刊行。 4月 エルワイン白痴院時代の親友にして当時同院長であったM・W・バーの来日を迎う。 5月 M・C・ハリスの葬儀に列する。 6月 「ルートル伝講演集」刊行。 7~19~26 三十六年間の信仰の友デヴィッド・C・ベル(八十一才)とその息子チャールスの来日を迎える。 10月 雑誌「靈光」を畔上、里崎により発刊。 翌9~1 第十二号にて終了。
11月 「東京聖書研究会」が「内村鑑三聖書研究会」と改称される。 10月 聖書之研究読者による世界伝道協賛会創設。 毎月柏木聖書講堂で集会。	12月 柏木兄弟団解散。 東京在留宣教師の開催による平和主義団の晩餐会に演説す。	12月 「末日の模型(新日本建設の絶好の機会)」を研究会を柏木聖書講堂に移す。 9月 震災のため衛生会講堂が潰滅したため聖書研究会を柏木聖書講堂に移す。 有島武郎の自殺に大憤激し「万朝報」に「背教者としての有島武郎氏」を寄稿。 12月 「聖書之研究」に掲載。	12月 「慰安と平安」(内村全集一巻の改題)刊行。 4月30より「東京朝日新聞」に小山内薫の小説「背教者」が連載された。 5月 「慰安と平安」(内村全集一巻の改題)刊行。 7~8月 軽井沢にて多数の外国人と交際する。 有島武郎の自殺に大憤激し「万朝報」に「背教者としての有島武郎氏」を寄稿。 9月 震災のため衛生会講堂が潰滅したため聖書研究会を柏木聖書講堂に移す。 10月 「世界の伝道の特権」刊行。
1924		1923	
13		12	
64		63	
1月 今井館聖書講堂改築完成。献堂式。 2~6月 イエス伝講演(十五回)。	1月 今井館聖書講堂改築完成。献堂式。 2~6月 イエス伝講演(十五回)。	1月 今井館聖書講堂改築完成。献堂式。 2~6月 イエス伝講演(十五回)。	1月 今井館聖書講堂改築完成。献堂式。 2~6月 イエス伝講演(十五回)。
3月 「約百記講演」刊行。	3月 「苦痛の福音」刊行。	3月 「苦痛の福音」刊行。	3月 「苦痛の福音」刊行。
4月 「英和独語集 Alone with God and Me」刊行。	5月 米國大統領クーリッヂが排日法案を署名したので憤り、憤慨の文章を次々に発表す。 蘇峯と意見を同じくし旧交をあたゝむ。	5月 米國大統領クーリッヂが排日法案を署名したので憤り、憤慨の文章を次々に発表す。 蘇峯と意見を同じくし旧交をあたゝむ。	5月 米國大統領クーリッヂが排日法案を署名したので憤り、憤慨の文章を次々に発表す。 蘇峯と意見を同じくし旧交をあたゝむ。
7~9月 長野県星野温泉に滞在し、多数の外国人と交際した。「本当の宗教」刊行。	6月 雲南坂教会での対米問題研究会に出席。	6月 雲南坂教会での対米問題研究会に出席。	6月 雲南坂教会での対米問題研究会に出席。
11月 「ダニエル書研究」刊行。	9月 「羅馬書の研究」刊行。	9月 「羅馬書の研究」刊行。	9月 「羅馬書の研究」刊行。
10~11月 ガラテヤ書講演(十一回)。	10月 「異人種の融合」を「聖書之研究」に掲載。	10月 「異人種の融合」を「聖書之研究」に掲載。	10月 「異人種の融合」を「聖書之研究」に掲載。
11月 「日本の天職」を「聖書之研究」に掲載。			

1930	1929
5	4
70	69
3 病状悪化怕ろしい苦惱を経験。 28 午前八時死去。 東京多摩墓地に葬られる。	1 1～4月 第一日曜日、詩篇、進化論と基督教について講ず。 1～10 医師に心臓肥大を指摘せられ、相州逗子海岸逗子ホテルに滞在。 13 より柏木にて、午前、午後の聖書研究会が開かる。 4月 麻布赤十字社病院にて心臓に大なる異状あることが明かにされ休講。 9月 秋の集会に講演続ける。 10月 「社会事業として見たる聖書研究」を「聖書之研究」に掲載。 11 12月 創世記講演(八回)。
(昭6・4～昭8・12「内村鑑三全集」二十巻、昭28・4～昭30・5「内村鑑三著作集」二十巻出版される。)	12 ・12 東京赤坂靈南坂教会創立五十年祝賀、小崎弘道牧師就職五十年記念会に、海老名綱島佳吉、徳富猪一郎とともに講壇に登り「信仰復興のきさし」と題して演説す。 12 22 「ノアの大洪水」について講演。 これが最後の講演となつた。 シユヴァイシエルの伝道に英貨十ポンドを贈る。